

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2009年7月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2009.html)

電気学会主催 公開シンポジウムへの取り組み

「クルマから宇宙まで～CO₂を減らすには～」

電気学会産業応用部門副部門長
公開シンポジウムD部門主査
玉井 伸三

〔東芝三菱電機産業システム(株)〕



電気学会は電気技術の社会貢献を、電気学会会員、非会員を問わず、広く社会一般の方々へ理解していただくことを趣旨として「公開シンポジウム」を開催しています。

産業応用部門は、年2回開催の公開シンポジウムの一つとして、昨年から「クルマから宇宙まで～CO₂を減らすには～」と題したシンポジウムを担当しています。

昨年は2008年4月1日に東京大学にて、今年は2009年3月27日に名古屋大学にて開催しました。

開催にあたり考慮した主な内容は次の4項目です。

- 1) 参加者に身近であり、かつ電気利用の最先端技術として、クルマ、新幹線、航空機と電力インフラを挙げ、更に宇宙から見た地球環境観測技術を紹介して参加者が視野を広げて考えるシンポジウムとする。
- 2) 電気技術の面白さを、次代を担う学生にも知ってもらうため、開催日を春休み期間中として学校等への協賛を呼びかける。
- 3) 参加者に全員参加の意識を持ってもらうため、景品をもらえる環境クイズを用意し、講演中にクイズを解く等の工夫をして参加しやすい雰囲気作りを図る。
- 4) Q&Aは時間の都合上長く取れないため、質問票を配布して提出してもらい、後日回答を学会Webサイトに公開する。

また、本シンポジウムのキャッチコピーは以下としました。

「21世紀、地球温暖化とエネルギー問題が最大の課題となってきました。CO₂を減らし、人類が幸福な未来社会を持続するには、電気エネルギーをかしこく使う知恵が必要です。

身近なクルマから、電車、飛行機、さらには、電力インフラから宇宙へと視野を広げながら、夢を実現する最先端技術を紹介します。私たちの未来のために、いまなすべきことは何か、みなさん一緒に考えましょう。」

約300名収容の会場を用意しましたが、去年は332名(内、中高生5名、大学生7名)、今年は264名(内、小学生3名、中高生13名、大学生28名)と、ほぼ予定人数を集めることができました。2年目には学生数が大幅に増え、また参加者へのアンケート結果においても、面白かったというご意見が多数を占め、企画を成功裏に終えることができたと考えています。以下に参加者の感想の一部を掲載します。

- ・小学生の僕でも分かりやすい説明で面白かったです。またやって下さい。来たかがありました。
- ・講師の準備が素晴らしい。図や写真が多くて分かり易かった。

逆に、一部の社会人の方々からは技術的な深さを期待されるご意見も頂戴しました。

本テーマは、現代の社会問題と直結しており、我々が生活水準を維持しながら地球環境問題を如何に解決していくかを考える良い機会を提供できるものと思っております。今後も改善しながら継続していきたいと考えております。

最後に、本シンポジウムの企画、開催にあたり、多大の協力をいただきました、パネリストの皆様、実行委員会、WG委員会の皆様、すばらしい会場運営をいただきました東京大学、名古屋大学関係諸氏の皆様に感謝いたします。



会場風景 (名古屋大学 2009年3月27日)